

都市再生整備計画 事後評価シート  
小倉都心地区

平成31年2月

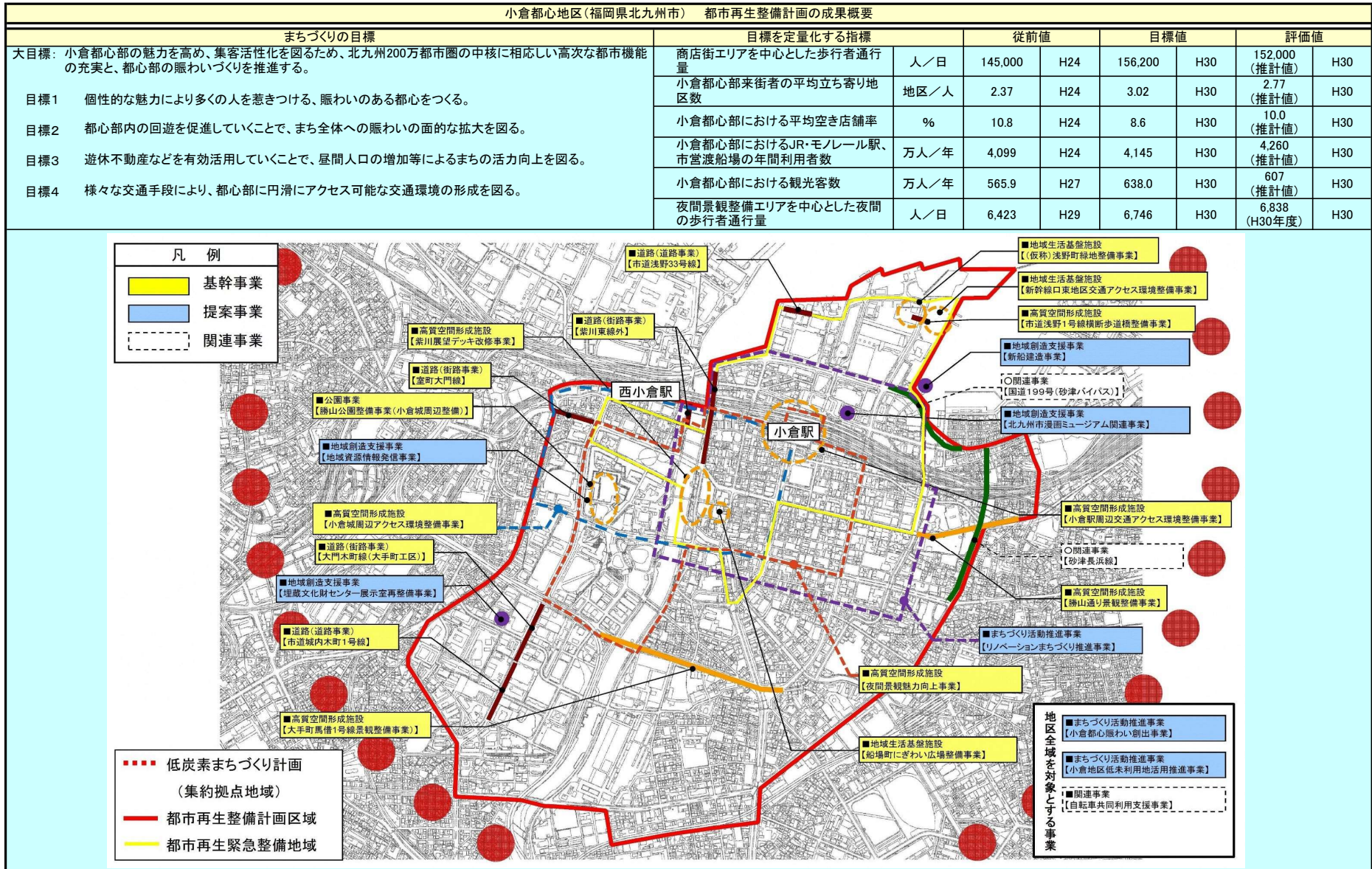
福岡県 北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	小倉都心地区			面積	380ha				
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	#REF! 百万円	国費率	#REF!						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【街路】	・紫川東線外 ・大門木町線(大手町工区) ・室町大門線											
			【道路】	・市道浅野33号線											
			【公園】	・勝山公園整備事業(小倉城周辺整備)											
		【高質空間形成施設】	・紫川展望デッキ改修事業 ・小倉駅周辺交通アクセス環境整備事業 ・勝山通り景観整備事業 ・大手町馬借1号線景観整備事業												
		提案事業	【地域創造支援事業】	・北九州市漫画ミュージアム関連事業 ・新船建造事業											
			【まちづくり活動推進事業】	・小倉都心賑わい創出事業 ・小倉地区低未利用地活用推進事業 ・リノベーションまちづくり推進事業											
			事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—	—											
		提案事業	—	—											
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】	・市道城内木町1号線	歩行者・自転車の安全性向上を図るために、広幅員歩道整備を追加		指標(数値目標)への影響は無し。まちづくり目標達成への寄与期待。								
【地域生活基盤施設】			・(仮称)浅野町緑地整備事業 ・新幹線口東地区交通アクセス環境整備事業 ・船場町にぎわい広場整備事業	来訪者の増加による更なる賑わい創出・回遊性向上を図るため追加		指標(数値目標)への影響は無し。まちづくり目標達成への寄与期待。									
			・小倉城周辺交通アクセス環境整備事業 ・船場町にぎわい広場整備事業	周辺集客施設を面的に連結し、歩行者ネットワーク強化を図るため追加		指標1(商店街エリアを中心とした歩行者通行量)の目標値を変更。									
			・市道浅野1号線横断歩道橋整備事業 ・小倉城周辺アクセス環境整備事業 ・夜間景観魅力向上事業	当該地区への来訪者の安全性・快適性を確保するため追加		指標1及び指標2の目標値を変更。									
提案事業		【地域創造支援資源として】	・埋蔵文化財センター展示室再整備事業 ・地域資源情報発信事業	当該地区への来訪者の安全性・快適性を確保するため追加		当該地区への来訪者の安全性・快適性を確保するため追加		当該地区への来訪者の安全性・快適性を確保するため追加		当該地区への来訪者の安全性・快適性を確保するため追加					
		【事業活用調査】	・事業効果分析業務	埋蔵文化財センター改修に併せて希少展示品の保存・活用を図るため追加		埋蔵文化財センター改修に併せて希少展示品の保存・活用を図るため追加		埋蔵文化財センター改修に併せて希少展示品の保存・活用を図るため追加		埋蔵文化財センター改修に併せて希少展示品の保存・活用を図るため追加					
				観光資源としての小倉城の魅力高め、集客力向上を図るため追加		観光資源としての小倉城の魅力高め、集客力向上を図るため追加		観光資源としての小倉城の魅力高め、集客力向上を図るため追加		観光資源としての小倉城の魅力高め、集客力向上を図るため追加					
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		事業、指標、数値目標への影響なし		事業、指標、数値目標への影響なし		事業、指標、数値目標への影響なし						
	変更	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		事業、指標、数値目標への影響なし		事業、指標、数値目標への影響なし		事業、指標、数値目標への影響なし						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)		フォローアップ 予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み							
	指標1	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	人/日	145,000	H24	156,200	H30	—	152,000(推計値)	△	あり	なし	○	目標達成に至らない見込みであるが、近年、歩行者通行量が改善してきており、道路整備等による歩行者空間の改善や賑わい創出を目的とした各種ソフト事業を実施した結果、交流人口増加や回遊性向上につながっている。	H31年4月以降
	指標2	小倉都心部来街者の平均立ち寄り地区数	地区/人	2.37	H24	3.02	H30	—	2.77(推計値)	△	あり	なし	○	目標達成に至らない見込みであるが、増加傾向にあり、歩行者空間の改善・公園等の整備、照明の設置などにより、回遊性が向上してきた結果であると考えられる。	H31年4月以降
	指標3	小倉都心部における平均空き店舗率	%	10.8	H24	8.6	H30	—	10.0(推計値)	△	あり	なし	○	目標達成に至らない見込みであるが、各種事業を実施した小倉駅周辺の商業エリアの空き店舗率は低い割合で推移しており、近年はさらに改善傾向にあり、一定の成果を挙げている。また、リノベーションまちづくり等の取組により創業や雇用において、着実に成果を上げていることも寄与していると考えられる。	H31年4月以降
	指標4	小倉都心部におけるJR・モノレール駅、市営渡船場の年間利用者数	万人/年	4,099	H24	4,145	H30	—	4,260(推計値)	○	あり	なし	—	目標達成の見込み。各種事業の実施により都心部の魅力が向上し、地区内への来街者が増加したことに加え、小倉駅周辺の歩行者空間の整備やアクセシビリティの向上等によって、乗降客数の増加につながったと考えられる。	H31年4月以降
	指標5	小倉都心部における観光客数	万人/年	565.9	H27	638.0	H30	—	607(推計値)	△	あり	なし	○	目標達成に至らない見込みであるが、観光客数は着実に増加傾向で推移している。近年、増加傾向にある本市への外国人来訪者を対象とした小倉城などの観光拠点の整備や各種イベント実施によって、増加したものと考えられる。	H31年4月以降
指標6	夜間景観整備エリアを中心とした夜間の歩行者通行量	人/日	6,423	H29	6,746	H30	—	6,838(H30年度)	○	あり	なし	—	目標達成の見込み。H29年度に「小倉都心地区夜間景観ガイドライン」を策定し、これに基づき、小倉城等の施設を核とした夜間景観の向上や照明設備の見直しなどの公民が一体となった取組により、夜間の交流人口が増加してきていると考えられる。	—	

指 標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	小倉駅北口エリア・南 北結節点における歩行 者通行量	人/日	30,572	H26	/	-	33,100 (推計値)	/	/	H28年度の北九州スタジアムのオープンに合わせてスタジアム周辺施設やインフラを整備し、それらを活用したイベントを開催してきた結果、小倉駅北口エリアの歩行者通行量が増加してきたと考えられる。また、小倉駅南北結節点における歩行者通行量も増加傾向にあり、小倉駅北口エリアで創出した賑わいが少しずつ循環してきていると考えられる。	H31年4月以降
	その他の 数値指標2	公示地価の変動率	%	-4.9	H24	/	-	2.2 (H30)	/	/	都心部における各種インフラ整備事業の推進に加え、小倉駅北口のスタジアムオープンや小倉駅南口の再開発事業の着工等が寄与した結果、H29年度に商業地の地価が24年ぶりに上昇に転じ、その後2年連続で、全国平均・地方圏平均を上回る上昇率になっており、小倉都心の商業地としての魅力が向上してきていると考えられる。	H31年4月以降
	その他の 数値指標3	歴史・文化・コンベンション施設への来場者数	千人/年	1,787	H24	/	-	2,175 (推計値)	/	/	北九州市を訪れる外国人観光客数は5年連続増加し、H29年度は過去最多を記録するなど好調が続いている中、この機を逃すことがないように小倉城周辺をはじめとした施設の魅力向上や発信、アクセス環境改善に取り組んだ結果、施設来場者数の増加につながっていると考えられる。	H31年4月以降
	その他の 数値指標4	小倉都心部における居 住人口	人	31,900	H24	/	-	34,800 (推計値)	/	/	小倉都心地区の居住人口は着実に増加。計画エリア内の居住環境は小倉都心に近いという立地条件に加え、道路整備等による生活利便性向上や魅力的な施設整備により都市のブランドイメージを高めていった結果、大手町地区をはじめとした地区内でマンション建設が進んでおり、都心の魅力が高まってきていると考えられる。	H31年4月以降
4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラの充実（安全・快適な歩行空間ネットワークの形成・強化、来訪者の憩いの場・休憩の場・イベント空間等となる賑わい拠点の形成）による賑わい創出・回遊性向上</li> <li>・公共空間の高質化による小倉都心地区の玄関口である小倉駅の魅力度向上</li> <li>・公民連携した各種集客イベント（こくらハロウィン、北九州ストリートダンスプロモーション、小倉うまかロボ大作戦 等）の継続的開催による都心地区内の賑わい増進</li> <li>・リノベーション手法によるまちづくりの取組の市内各地への波及・展開（遊休不動産の再生、創業・雇用の創出、地域商業の活性化等）、全国的な注目度の高まりと展開</li> </ul>											
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等							
モニタリング	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		—							
住民参加 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市漫画ミュージアム関連事業にあたってのイベント、ワークショップ等の開催</li> <li>・リノベーションまちづくり推進事業におけるリノベーションスクール、セミナー等の開催</li> <li>・小倉都心地区の賑わい創出を目的とした各種イベントを、民間と連携して実施</li> </ul>		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		●		今後も引き続き、地域・民間と連携した取組の強化・発展、熱意のある市民活動や民間の自立的な活動への積極的支援を推進する。					
持続的なまちづくり 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リノベーションまちづくり推進事業の実施にあたっての行政・民間の役割分担の明確化</li> <li>・行政は相談支援、広報・PRなどのサポートを中心に実施</li> <li>・民間主導でリノベーションの手法を用いた新しいまちのコンテンツを生み出し、雇用と賑わいを創出</li> </ul>		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		●		関係団体と密に連携をとりながら、本市におけるリノベーションまちづくりをはじめとして、公民連携の取組の更なる展開を図る。					

## 様式2-2 地区の概要



<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き北九州200万人都市圏の中核を担うため、高次の都市サービス機能を維持するとともに、地域の特性を活かしながら、拠点としての魅力をさらに磨いていくことが必要。</li> <li>・国際化時代の交流拠点として、MICEやスポーツ等を通じた、ヒト・モノ・情報が活発に交流する、賑わいのあるまちづくりが必要。</li> <li>・増加する外国人をはじめとした観光客の受け入れ体制の強化と、滞在時間を延長するような取組を展開していくことが必要。</li> <li>・様々な交通モードによる都心部へのさらなる交通アクセス性の向上に加え、都心部の魅力を高める取組の展開と回遊性の向上により、賑わいの面的な拡大を図ることが必要。</li> <li>・都市で享受できる高い利便性を維持・向上させ、安全・安心に、便利で快適に暮らせるまちづくりを進めていくことが必要。</li> <li>・世界の環境首都にふさわしい、緑豊かな景観や快適な都市環境を先導的に創出することが必要。</li> <li>・遊休不動産や公共空間を有効に活用することで、まちの賑わいや活力のさらなる向上につなげていくことが必要。</li> <li>・全国に先んじて進む高齢化・人口減少、限られた労働力・財源を踏まえ、まちづくりの主役である市民・地域団体・企業等が役割を分担し協働して、都市の課題に効率的に取り組むことが必要。</li> </ul>
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<p>今後も引き続き、第4期計画として、都市再生整備計画事業を推進する。(大目標：北九州200万人都市圏の中核に相応しい高次な都市機能の集積等による魅力的な拠点の形成と、世界の環境首都として誇れる質の高い都市環境の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の利便性向上等による、都心へアクセスしやすい環境の整備</li> <li>・安全安心で快適な歩行空間のさらなる整備</li> <li>・地域の強み・特性を活かした、広域に発信できるイベント等の実施</li> <li>・観光やMICEに着目した都市ブランディングの推進</li> <li>・安全安心で魅力ある都市景観の形成</li> <li>・緑豊かな環境に優しいまちづくりの推進</li> <li>・都市型住宅の供給促進</li> <li>・既存ストック、遊休不動産や公共空間の有効活用</li> <li>・まちづくりを担う新たなプレイヤーの育成支援など公民連携の取組の促進</li> </ul>